

新旧分離字と新旧包摂字

—JIS 漢字の所拠漢字表と包摂規準—

池田 証寿

要 旨

JIS 漢字では旧字体（康熙字典体）のすべてが例示字体として示されていない。これは字形の違いが僅かなものは同値として同一の符号位置を与えたからである。現行の JIS 漢字の規格票ではこれを字体の「包摂」と呼ぶ。この措置は、性能が飛躍的に向上したといわれる現在のコンピュータの処理能力を配慮しても妥当といえる。

新字体とは別に独立の区点位置を与えられている旧字体は、所拠の漢字表で区別されているからである。字形の違いが僅かであっても所拠の漢字表に出現すれば例外的に旧字体が採録されている。例外は人名の漢字表を所拠とする漢字に目立つ。

1 はじめに

この論の筆者である池田は、1994 年から現在（1997 年）に至るまで、符号化文字集合（JCS）調査研究委員会（主査：芝野耕司東京国際大学教授）の委員として現行 JIS 漢字の改正作業及び新 JIS 漢字の開発に関わっている¹。この委員会の成果は、JIS 漢字の規格票（JIS X 0208:1997）と芝野耕司編著『JIS 漢字字典』（日本規格協会、1997 年）で知ることができる。また、その間に委員会が発掘した大量の JIS 漢字関係資料は、データベース化して一般に公開することを予定している。

JIS 漢字については、字種の不足、字体設計の不統一、いわゆる「拡張新字体」の採用、通常の漢字字典に見えない漢字の採用など、批判として語られることが多い。こうした JIS 漢字批判の現状を踏まえて、字種の選定と字体設計の不統一とに関わる問題をやや詳しく説明し、これによってそもそも「JIS 漢字とは何か」を述べようとするものである。具体的には、ワードプロセッサやパーソナルコンピュータ等の情報機器において、すべての旧字体に独立した区点位置が与えられていない（したがって、通常の方法では、情報機器を使ってすべて旧字体を表示・印刷できない）問題を取り上げる²。

2 新旧分離字と新旧包摂字

JIS 漢字には、新字体・旧字体を別区点とする新旧分離字と、新字体・旧字体を同じ区点とする新旧包摂字とがある。この新旧分離字と新旧包摂字とについて、JIS 漢字が所拠とした 4 漢字表との関連、包摂規準との関連を見る。

2.1 新旧分離字

「常用漢字表」（1981 年）で括弧に入れて康熙字典体の活字が添えられている例のうち、新字体（常用漢字の字体）と旧字体（いわゆる康熙字典体）の双方が別の区点に符号化されている例

¹ 国語学関係の委員は次の 3 名である。豊島正之（幹事兼エディタ）、笹原宏之、池田証寿。

² 念のためいえば、ここで述べることは、あくまで池田個人の見解である。JCS 調査研究委員会の内部でも種々の意見が開陳されている。その一端は、太田昌孝『いま日本語が危ない』（丸山学芸図書、1997 年）を参照。

を「新旧分離字」と呼ぶ。該当するのは、256組、514字（新字体256字、旧字体258字）である。

亜(亞)	惡(惡)	圧(壓)	囲(圍)	医(醫)	為(爲)	壹(壹)	隱(隱)	榮(榮)
嘗(嘗)	衛(衛)	駢(驛)	円(圓)	塩(鹽)	応(應)	欧(歐)	殴(殴)	桜(櫻)
奥(奥)	穩(穩)	仮(假)	価(價)	画(畫)	会(會)	繪(繪)	壞(壞)	懷(懷)
拡(擴)	殻(殼)	覚(覺)	学(學)	岳(嶽)	楽(樂)	缶(罐)	卷(卷)	陥(陷)
勸(勸)	関(關)	歡(歡)	観(觀)	気(氣)	帰(歸)	偽(偽)	戯(戯)	犧(犧)
旧(舊)	拠(據)	拳(拳)	峽(峽)	挟(挾)	狭(狹)	曉(曉)	区(區)	驅(驅)
勲(勳)	徑(徑)	莖(莖)	恵(惠)	溪(溪)	経(經)	蛍(螢)	軽(輕)	繼(繼)
鶏(鷄)	芸(藝)	欠(缺)	県(縣)	儉(儉)	剣(劍)	険(險)	圈(圈)	検(檢)
献(獻)	権(權)	顕(顯)	験(験)	厳(嚴)	広(廣)	効(效)	恒(恆)	鉱(鑛)
号(號)	国(國)	碎(碎)	济(濟)	斎(齋)	劑(劑)	雜(雜)	参(參)	棧(棧)
蚕(蠶)	惨(慘)	賛(贊)	残(殘)	糸(絲)	齒(齒)	児(兒)	辞(辭)	湿(濕)
実(實)	写(寫)	釈(釋)	寿(壽)	収(收)	従(從)	洩(洩)	獸(獸)	縦(縦)
肃(肅)	処(處)	叙(敘)	将(將)	称(稱)	焼(燒)	証(證)	奨(奨)	条(條)
乘(乘)	浄(淨)	剩(剩)	畳(畳)	縄(縄)	壤(壤)	嬢(嬢)	讓(讓)	醸(醸)
触(觸)	嘱(嘱)	真(眞)	寝(寢)	慎(慎)	尽(盡)	凶(圖)	粹(悴)	酔(酔)
穂(穂)	随(隨)	髓(髓)	枢(樞)	数(數)	声(聲)	斉(齊)	静(靜)	窃(竊)
撮(撮)	専(專)	浅(淺)	戦(戰)	踐(踐)	銭(錢)	潜(潛)	織(織)	禅(禪)
双(雙)	壮(壯)	争(爭)	荘(莊)	搜(搜)	挿(挿)	装(装)	総(總)	騷(騷)
蔵(藏)	臈(臘)	属(屬)	続(續)	墮(墮)	对(對)	体(體)	帯(帶)	滞(滯)
台(臺)	滝(瀧)	択(擇)	沢(澤)	担(擔)	単(單)	胆(膽)	団(團)	断(斷)
弾(彈)	遅(遅)	痴(癡)	虫(蟲)	昼(晝)	鑄(鑄)	庁(廳)	聴(聽)	勅(敕)
鎮(鎮)	遞(遞)	鉄(鐵)	点(點)	転(轉)	伝(傳)	灯(燈)	当(當)	党(黨)
盗(盜)	稻(稻)	鬪(鬪)	独(獨)	読(讀)	届(屆)	貳(貳)	悩(悩)	脳(脳)
霸(霸)	拜(拜)	廃(廢)	売(賣)	麦(麥)	発(發)	髪(髮)	抜(抜)	蛮(蠻)
秘(祕)	浜(濱)	払(拂)	仏(佛)	並(並)	辺(邊)	変(變)	弁(辨辯辯)	
宝(寶)	豊(豊)	褒(褒)	翻(翻)	万(萬)	満(満)	黙(黙)	訳(譯)	薬(藥)
与(與)	予(豫)	余(餘)	誉(譽)	揺(揺)	様(様)	謡(謡)	来(來)	乱(亂)
覧(覽)	竜(龍)	両(兩)	獵(獵)	壘(壘)	礼(禮)	励(勵)	霊(靈)	齡(齡)
恋(戀)	炉(爐)	労(勞)	楼(樓)	湾(灣)				

一方、規格票の例示字体には新字体だけが見え、旧字体が別の区点に符号化されていない例を「新旧包摂字」と呼ぶ。該当するのは、99組、198字（新字体99字、旧字体99字）である³。

逸(逸)	謁(謁)	縁(緣)	横(横)	黄(黃)	温(溫)	禍(禍)	悔(悔)
海(海)	慨(慨)	概(概)	喝(喝)	渴(渴)	褐(褐)	寛(寬)	漢(漢)
器(器)	既(既)	祈(祈)	虚(虚)	郷(郷)	響(響)	勤(勤)	謹(謹)
薫(薫)	掲(掲)	撃(撃)	研(研)	穀(穀)	黒(黒)	殺(殺)	祉(祉)
視(視)	煮(煮)	社(社)	者(者)	臭(臭)	祝(祝)	暑(暑)	緒(緒)
署(署)	諸(諸)	涉(涉)	祥(祥)	状(状)	神(神)	瀬(瀬)	節(節)
祖(祖)	僧(僧)	層(層)	巢(巢)	増(増)	憎(憎)	贈(贈)	即(即)
嘆(嘆)	著(著)	徴(徴)	懲(懲)	塚(塚)	都(都)	徳(徳)	突(突)

³括弧内に旧字体を入れたが、これは絵として貼り込んで印刷したものである。

難(難) 梅(梅) 繁(繁) 晚(晩) 卑(卑) 碑(碑) 賓(賓) 頻(頻)
敏(敏) 瓶(瓶) 侮(侮) 福(福) 併(併) 堀(堀) 勉(勉) 歩(歩)
墨(墨) 毎(毎) 免(免) 戾(戾) 頼(頼) 欄(欄) 隆(隆) 虜(虜)
緑(緑) 涙(涙) 類(類) 曆(曆) 歴(歴) 練(練) 錬(錬) 廊(廊)
朗(朗) 郎(郎) 録(録)

2.2 JIS漢字関連の規格

JIS(日本工業規格)のうち、漢字に関連する規格は次の通りである。

1. JIS C 6226-1978 情報交換用漢字符号系
2. JIS C 6226-1983 情報交換用漢字符号系(後、JIS X 0208-1983 と改称)
3. JIS X 0208-1990 情報交換用漢字符号
4. JIS X 0208:1997 7ビット及び8ビットの2バイト情報交換用符号化漢字集合

1978年の第一次規格(78JIS)制定以来、3回に及ぶ改正を経て現行の1997年版の第四次規格に至っている。この最新版のX 0208:1997では、文字の追加、入れ替え、字体の変更等を一切行わず、規格の明確化を計った。これによって各区点位置の表す文字の同定がなされ、JISで表現できる字と表現できない字が明確になった。区点位置と字体との対応がその区点位置の例示字体と「包摂規準」とによって明示的に記述され、漢字の字体のユレの範囲が網羅的に示されることとなった⁴。文字の同定のために音訓、所属部首、画数、字書番号(『新字源』(角川書店)、諸橋轍次編『大漢和辞典』(大修館書店)の検字番号)等の情報が与えられ、問題のある文字についてはさらに具体的な用例が詳細に示されている。

また、JIS漢字が漢字字体の標準を決めているかのような理解の仕方があったが、JISは一般に用いられている漢字との対応を示すに過ぎないという立場が明確に打ち出された⁵。

要するにX 0208:1997では徹底的な文字同定作業がなされ、今後文字コードの拡張に際してはこの水準での文字同定作業が要求されることとなったのである。

この他に、次の規格がある。

1. JIS X 0212-1990 情報交換用漢字符号-補助漢字
2. JIS X 0221-1995 国際符号化文字集合(UCS)-第1部 体系及び基本多言語面

漢字に限っていえば、X 0212-1990が5801字、X 0221-1995が約21000字を規定している。

さらに現在、JIS X 0208:1997の改正を行ったJCS調査研究委員会では、次のプロジェクトとして「7ビット及び8ビットの2バイト情報交換用符号化文字集合—第3水準及び第4水準」の開発を行っている⁶。

⁴規格票に例示される字体そのものにユレがあり、さらにそれを実装した各メーカーの字体にもユレがあるのが現実である(詳細は規格票及び『JIS漢字字典』を参照)。1978年の第一次規格以来、JIS漢字による電子データの資産が蓄積されており、それらの互換性を保持するための措置である。

⁵事実上、JISが漢字字体を決めているとの反論もあろう。この点については、規格票の印刷に用いた書体(平成明朝体)を相対化する努力を『JIS漢字字典』において実践している。具体的には字典の見出しの書体に平成明朝体以外の書体を採用し、この書体と平成明朝体との異同をデザイン差を含めてすべて一覧している。

なお、この『JIS漢字字典』には規格票そのものが縮小して収められており、以前に比べると規格票の入手が容易となった。

⁶詳しくは<http://www.tiu.ac.jp/JCS/>を参照。

2.3 JIS漢字所拠の4漢字表

JIS漢字約6300字の実際の選定では、次に掲げる4漢字表だけが用いられている。

1. 「標準コード用漢字表(試案)」6086字
2. 「行政管理庁基本漢字」2817字
3. 「日本生命収容人名漢字表」3044字
4. 「国土行政区画総覧使用漢字」(地名)3251字

「標準コード用漢字表(試案)」は、「標準コード用漢字表(試案)」(情報処理学会漢字コード委員会、1971年)による。以下、「情報」と略す。

「行政管理庁基本漢字」は、「行政情報処理用基本漢字に対する符号付とに関する調査研究報告書〔付表〕」(行政管理庁、1975年)による。以下、「行政」と略す。

「日本生命収容人名漢字表」と「国土行政区画総覧使用漢字」は、「行政情報処理用標準漢字選定のための漢字使用頻度および対応分析結果」(行政管理庁、1974年。以下「対応分析結果」と略)による。以下「日本生命収容人名漢字表」を「日生」と略し、「国土行政区画総覧使用漢字」を「国土」と略す。

この「対応分析結果」には、次の8漢字表との対応調査がまとめられている。

漢字表の名称	漢字数 A	漢字数 B
(1) 標準コード用漢字表(試案)	6086	6090
(2) 6社協定新聞社用コード表(CO-59)	1985	1986
(3) 内閣調査室収容漢字表	3181	3182
(4) 科学技術情報センター収容漢字表(JICST)	1864	1865
(5) 大蔵省主計局収容漢字表	4276	4281
(6) 国立国会図書館収容漢字表	3956	3957
(7) 日本生命収容人名漢字	3044	3041
(8) 国土行政区画総覧使用漢字	3251	3264

漢字数 A は規格票解説に見える各漢字表の漢字数、漢字数 B は筆者が「対応分析結果」を電子化したデータによる各漢字表の漢字数である。重複、誤入力、非漢字(ㄨ、々、全)の扱いにより若干数値が異なる。

3 JIS漢字所拠漢字表との関係

旧字体は「情報」に最も多く見え、「日生」がこれに次ぐ。新旧分離字の旧字体は「情報」「日生」を所拠とする例が多い。新旧包摂字の旧字体も「情報」「日生」を所拠とする例が多い。ちなみに「国土」には従来の漢和辞書未掲載の国字が多い⁷。

3.1 新旧分離字の選定

3.1.1 新字体の採録状況

「情報」「行政」「日生」「国土」での有無を“+”と“-”で示してまとめると次の表になる。該当のない組み合わせは略した。

⁷JISの典拠未詳字に関しては、笹原宏之の一連の研究が極めて有益。関連の論文は笹原宏之「字体に生じる偶然の一致—「JIS X0208」と他文献における字体の「暗合」と「衝突」—」(『日本語科学』1、国立国語研究所、1997年4月)などからたどれる。

情報	行政	日生	国土	合計
+	+	+	+	246
+	+	+	-	1
+	+	-	+	3
+	+	-	-	3
+	-	-	+	1
-	-	-	+	1
-	-	-	-	1
254	253	247	251	256

「情報」「行政」「日生」「国土」の4漢字表に共通する漢字がほとんどで、246字ある。

亜 悪 庄 困 医 為 尙 隱 榮 營 衛 駅 円 塩 応 欧 殴 桜 奥
 穩 仮 価 画 会 絵 壞 懷 拡 覚 学 岳 楽 卷 陥 勸 関 歡 観
 気 帰 偽 戯 犧 旧 拋 拳 峡 狭 曉 区 驅 勲 径 莖 恵 溪 経
 軽 継 鶏 芸 欠 梟 俟 劍 険 圈 検 献 権 頭 験 廠 広 効 恒
 鉦 号 国 碎 濟 斎 劑 雜 参 棧 蚕 惨 賛 残 糸 齒 兎 辞 湿
 実 写 积 寿 収 従 洩 獸 縱 肅 処 叙 将 称 焼 証 奨 条 乘
 浄 剩 畳 縄 壊 嬢 讓 釀 触 嘱 真 寢 慎 尽 凶 粹 醉 穗 随
 髓 数 声 斉 静 窃 撰 専 浅 戦 践 銭 潜 織 禪 双 壮 争 莊
 搜 装 総 騒 蔵 臍 属 続 对 体 帯 滞 台 淹 扞 沢 担 単 胆
 団 断 弾 遅 虫 昼 鑄 庁 聴 勅 鎮 遞 鉄 点 転 伝 灯 当 党
 盜 稻 鬪 独 読 届 式 悩 脳 霸 拝 糜 壳 麦 癸 髮 抜 秘 浜
 払 仏 並 辺 変 弁 宝 豊 翻 万 満 黙 訃 葉 与 予 余 誉 揺
 様 謡 来 乱 覽 竜 両 獵 壘 礼 励 靈 齡 恋 炉 勞 楼 湾

「情報」「行政」「日生」の3漢字表に共通するのは「枢」の1字である。

「情報」「行政」「国土」の3漢字表に共通するのは「殻」「壘」「褰」の3字である。

「情報」「行政」の2漢字表に共通するのは「缶」「墮」「痴」の3字である。

「情報」「国土」の2漢字表に共通するのは「蚩」の1字である。

「国土」だけにあるのは「挟」の1字である⁸。

「情報」「行政」「日生」「国土」の何れにも見えないのは「挿」の1字である⁹。

新旧分離字のうち新字体(256字)の採録は、「情報」「行政」「日生」「国土」の4漢字表に共通する字がほとんどである。この4漢字表のなかでは「情報」(254字)の漢字数が最大である。「情報」に「行政」(253字)、「日生」(247字)、「国土」(251字)は、(2字の例外を除き)すべて含まれている。例外は、4漢字表の何れにも見えない「挿」と「国土」だけの「挟」である。この2字が78年のJIS漢字に採録された経緯の詳細は不明であるが、恐らく常用漢字表の制定(1981年)に関わるものと推測される¹⁰。

⁸「挟」は78JIS原案報告書(後述)では第二水準に置かれ、旧字体の「挟」が第一水準に置かれている。78JIS以降は、「挟」が第一水準であり、「挟」が第二水準である。「挟」は、当用漢字表になく、常用漢字表にある字である。

⁹「挿」は「対応分析結果」では官報頻度6、他の漢字表になし、となっている。この字は78JIS原案報告書に見えず、該当する区点位置(33-62)には「挿」(78JIS以降、区点57-71に符号化される字)が記載されている。「挿」は、当用漢字表になく、常用漢字表にある字である。

¹⁰第12期国語審議会報告(1977年1月21日)として文部大臣に報告された「新漢字表試案」(1900字)は当用漢字表を83字増補し、33字削除したもののだが、この増補83字に「挟」「挿」2字が含まれている。「新漢字表試案」の内容は、武部良明『日本語の表記』(角川書店、1979年)によった。

3.1.2 旧字体の採録状況

情報	行政	日生	国土	合計
+	+	+	+	2
+	+	+	-	2
+	+	-	+	2
+	-	+	+	11
+	+	-	-	2
+	-	-	+	4
-	-	+	+	1
+	-	+	-	160
+	-	-	-	65
-	-	+	-	9
248	8	185	20	258

「情報」「行政」「日生」「国土」の4漢字表に共通するのは「燈」「龍」の2字である。

「情報」「行政」「日生」の3漢字表に共通するのは「條」「繩」の2字である。

「情報」「行政」「国土」の3漢字表に共通するのは「挾」「螢」の2字である。

「情報」「日生」「国土」の3漢字表に共通するのは「應」「嶽」「溪」「劍」「棧」「絲」「瀧」「澤」「萬」「與」「樓」の11字である。

「情報」「行政」の2漢字表に共通するのは「罐」「插」の2字である。

「情報」「国土」の2漢字表に共通するのは「圓」「雙」「辯」「豫」の4字である。

「日生」「国土」の2漢字表に共通するのは「殼」の1字である。

「情報」「日生」の2漢字表に共通するのは次の160字である。

亞 惡 壓 圍 醫 爲 壹 隱 榮 營 衛 驛 櫻 穩 假 價 畫 會 繪
 懷 擴 學 樂 陷 勸 歡 觀 氣 歸 僞 據 舉 峽 狹 曉 動 徑 莖
 惠 經 輕 繼 藝 縣 險 檢 權 顯 驗 嚴 廣 鑛 號 國 濟 齋 劑
 雜 蠶 贊 殘 齒 兒 濕 實 寫 釋 壽 收 從 澁 縱 處 將 稱 燒
 獎 乘 淨 剩 疊 壤 讓 釀 觸 囑 眞 愼 盡 圖 醉 穗 樞 數 聲
 齊 靜 攝 專 淺 戰 踐 錢 爭 搜 總 騷 藏 臟 屬 續 對 體 滯
 臺 擇 單 團 斷 彈 遲 晝 廳 聽 鐵 傳 當 稻 獨 讀 屆 惱 腦
 拜 廢 賣 麥 發 拂 佛 竝 邊 變 寶 滿 默 譯 藥 譽 樣 來 亂
 兩 獵 壘 禮 齡 戀 勞 灣

「情報」だけにあるのは次の65字である。

鹽 歐 毆 壞 關 戲 犧 舊 區 驅 鷄 缺 儉 圈 獻 效 恆 碎 參
 慘 辭 獸 肅 敍 證 孃 悴 隨 髓 竊 潛 織 禪 墮 帶 擔 膽 癡
 蟲 鑄 敕 鎮 遞 點 黨 盜 鬪 貳 霸 髮 拔 蠻 祕 濱 辨 瓣 豐
 衰 翻 餘 搖 謠 勵 靈 爐

「日生」だけにあるのは「奧」「覺」「卷」「寢」「壯」「莊」「裝」「轉」「覽」の9字である。

新旧分離字のうち旧字体(258字)の採録は、「情報」と「日生」によるものが多い。4漢字表のなかでは「情報」(248字)の漢字数が最大であり、「行政」(8字)は「情報」にすべて含まれ

る。「日生」(185字)にあり「情報」にないのはたかだか10字(殻奥覺卷寢壯莊裝轉覽)であり、「国土」(20字)に至っては「日生」にも共通の「殻」1字に過ぎない。

新旧分離字(258字)のほとんどは「情報」により採録され、10字を「日生」で補う結果となっている。これは、「情報」「行政」「日生」「国土」の4漢字表に現れる字をすべて採録しようとして、結果的に新旧分離字の旧字体の採録には「情報」と「日生」が強く影響したということであろう。しかしこの結果はそれなりに重みを持つ¹¹。

JIS漢字の選定は、実際に使用された漢字に対してなされており、漢和辞典にある字をすべて採録するという方針をとっていない。これは、「通常の国語文の表記に用いる図形文字の集合とその符号について規定する」(JIS C 6226-1978の適用範囲の項)JIS漢字としては妥当な措置といえる。JIS漢字に対して旧字体が使えぬという不満は大きい、そもそも旧字体は、「情報」にあり、しかも「日生」にあるのでJISに採録されたのである。旧字体をすべて採録するという方針は最初からなかった。

3.2 新旧包摂字の選定

3.2.1 新字体の採録状況

情報	行政	日生	国土	合計
+	+	+	+	89
+	+	-	+	2
+	-	+	+	1
+	+	-	-	3
-	-	-	-	4
96	95	90	92	99

「情報」「行政」「日生」「国土」の4漢字表に共通するのは次の89字である。

併 僧 免 勉 勤 卑 即 嘆 器 増 墨 寛 層 廊 徴 徳 悔 慨 憎
 懲 戾 掲 撃 敏 既 暑 晩 曆 朗 梅 巢 概 横 欄 歩 歴 殺 毎
 海 涙 渴 渉 温 漢 瀨 煮 状 瓶 研 碑 社 祈 祉 祝 神 祖 祥
 禍 福 突 節 緒 緑 練 縁 繁 署 者 臭 著 薰 虚 視 諸 謹 賓
 頼 贈 逸 郎 郷 都 録 隆 難 響 類 黄 黒

「情報」「行政」「国土」の3漢字表に共通するのは「塀」「鍊」の2字である。

「情報」「日生」「国土」の3漢字表に共通するのは「侮」の1字である。

「情報」「行政」の2漢字表に共通するのは「穀」「虜」「謁」の3字である。

「情報」「行政」「日生」「国土」の何れの漢字表にも見えないのは「喝」「塚」「褐」「頻」の4字である¹²。

新旧包摂字の新字体(99字)の採録は、4字(喝塚褐頻)の例外を除いて、「情報」「行政」「日生」「国土」の4漢字表に出現する字である。4漢字表のなかでは「情報」(96字)が最大である。この「情報」に「行政」(95字)、「日生」(90字)、「国土」(92字)はすべて含まれている。

¹¹なお、旧字体のほとんどが第二水準であるが、「燈」「籠」「瀧」の3字が第一水準となっている。

¹²この4字が「対応分析結果」でどうなっているかを見ると、「喝」は他の漢字表にも見えず官報頻度0であるが、字種区分7とあり、「申し送り案(追加)」の字である。「塚」は「対応分析結果」で「JICST」だけに見え、官報頻度0である。この2字は常用漢字表の制定にともない、第二次規格(83JIS、前述のJIS C 6226-1983)による字体変更がなされたものである。ただし、「塚」は78JIS第1刷では旧字体だが、索引は新字体「塚」である(第4刷の正誤票で訂正)。「褐」は「対応分析結果」で旧字体に作り、新字体は見えないが、78原案報告書(後述)で旧字体、78JISで通用字体に作る。「頻」は「対応分析結果」で新字体に作るが、「情報」では旧字体であり、これは「対応分析結果」の誤記と判断した。78JIS原案報告書と78JISは旧字体である。

3.2.2 旧字体の採録状況

情報	行政	日生	国土	合計
+	+	+	+	1
+	+	-	-	3
+	-	-	+	1
+	-	+	-	6
+	-	-	-	12
-	-	+	-	22
-	-	-	-	54
22	3	31	2	99

「情報」「行政」「日生」「国土」の4漢字表に共通するのは「塚」の1字である¹³。

「情報」「行政」の2漢字表に共通するのは「喝」「褐」「頻」の3字である¹⁴。

「塚」「喝」「褐」「頻」の4字の旧字体は、常用漢字によるJIS字体変更が関係する例で、78JIS原案の段階で採録の対象となっていたと見なすことができる例である。

「情報」「国土」の2漢字表に共通するのは「碑」の1字である。

「情報」「日生」の2漢字表に共通するのは「徳」「曆」「巢」「概」「歴」「郷」の6字である。

「情報」だけに見えるのは「謁」「慨」「既」「響」「撃」「瀬」「節」「即」「徴」「卑」「頼」「隆」の12字である¹⁵。

「日生」だけに見えるのは次の22字である。

縁 濫 祈 薫 穀 黒 社 者 緒 署 諸 祖 著 都 福 併 歩 欄 縁 練
朗 録

「情報」「行政」「日生」「国土」の何れにも見えないのは次の54字である。

逸 横 黄 禍 悔 海 渴 寛 漢 器 虚 勤 謹 掲 研 殺 社 視 煮 臭
祝 暑 涉 祥 状 神 僧 層 増 憎 贈 嘆 懲 突 難 梅 繁 晚 賓 敏
瓶 侮 塀 勉 墨 毎 兎 戾 虜 涙 類 鍊 廊 郎

この54字を「対応分析結果」で見ると、すべて「大蔵省主計局収容漢字表」(4276字)だけに現れている。これらがJIS漢字に不採録だったのは、所拠とした4漢字表になかったからである(「謁」もこれに準ずる例である)。

もっとも、なぜ「大蔵省主計局収容漢字表」を所拠の漢字表にしなかったのかという疑問も生じる。この点については、「漢字整理番号表」(日本情報処理開発センター、1975年)が参考になる。この資料では「対応分析結果」に掲げる8漢字表とこれ以外の12漢字表との対応調査がまとめられている。ここで問題にしている新旧包摂字のうち旧字体がどうなっているかを調べてみた。その結果、「喝」「塚」「褐」「頻」の旧字体が見えるのみで他の例はない。要するに旧字体を網羅するのは「大蔵省主計局収容漢字表」だけであり、これを唯一の根拠として旧字体すべてを採録するわけにはいかない¹⁶。

¹³78JISは旧字体に作っている。これは当用漢字表になかったが、常用漢字表で追加された漢字である。それにともない83JISで字体変更された。

¹⁴この3字は、前述したように、当用漢字表になく常用漢字表で追加、それに伴い83JISで字体変更したものである。

¹⁵ただし、「謁」の旧字体は「対応分析結果」によると「情報」にありとなっているが、「標準コード用漢字表(試案)」と照合するに誤記入と認められ、「情報」になしとすべき例である。

¹⁶実際問題として、新旧字体を網羅する大蔵省の漢字表は、デザイン差をも区別するため単純にとれないという事情もあったであろう。たとえば「文」の旧字体は大蔵省の漢字表だけにあるが、その字形は「文」のように筆押さえがある。大蔵省の漢字表をとるとしても一定の規準を設けて採否を決定していかざるを得ないのである。

次に、「情報」「行政」「日生」「国土」の何れかに見える45字のうち、78JISか78JIS原案報告書に旧字体のある「塚」「喝」「褐」「頻」の4字と、「対応分析結果」の誤記入である「謁」を除く40字が問題となる。この40字(碑、徳曆巢概歴郷、慨既響撃瀬節即徴卑頼隆、縁温祈薫穀黑社者緒署諸祖著都福併歩欄緑練朗録)は、どのような理由によってJIS漢字に不採録となったのか。

3.3 異体字の取扱いの原則により削除

78JIS原案作成委員会の正式名称は「漢字符号標準化調査研究委員会」であるが、その報告書(「情報交換のための漢字符号の標準化に関する調査研究報告書」日本情報処理開発センター、1976年3月)によると、従来の規格解説で「字形の違いがわずかである」(=同値)と認めてただ一つの符号に合併した漢字が具体的に一覧されている。表5-5「異体字の取扱いの原則により第2水準漢字群から削除する字」として163字が掲げられているのがそれである。ここには「情報」「行政」「日生」「国土」の何れかに見えるのに不採録となった旧字体40字がすべて見える。これら40字が削除された直接の理由はこれで判明した。

4 包摂規準との関係

常用漢字の範囲に関していえば、「情報」典拠の旧字体(新旧分離字・新旧包摂字)は、包摂規準により符号化され、例外は見当たらない。これに対し「日生」典拠の旧字体(新旧分離字・新旧包摂字)は、例が少ないが、包摂規準適用除外かそれに準ずる例と見なされる。

4.1 「情報」典拠の旧字体

「標準コード用漢字表(試案)」から、「包摂」に関わる部分を次に引用する。

- (1) 当用漢字で、新旧字体の著しく相違するものは、両体を採用する。

両体を採用した例：

体體 岳嶽 挾擇 尽盡 黙黙 齒齒 学學 齋齋

小異を無視した例：

朕朕 隊隊 脱脱 判判 消消 商商 冬冬 羽羽 戸戸

旅旅 派派

周周 契契 具具 包包 灰灰

飯飯 雅雅 社社 全全 内内 絶絶 恐恐 呉呉 録録

花花 併併 成成 及及 每每 練練 免免 延延

近近 者者 歩歩 黄黄 動動 奥奥

温温 渴渴 壮壮

- (2) 当用漢字で新旧一対になるもの以外の異体字は、アおよびイの手続きによって拾われる範囲で採用する。

例：劍劍劔劔 龜龜 繩繩 秋穉

小異を無視したとする「奥奥」「壮壮」が別区点に符号化されていて、これらは例外となる。しかし、78JIS解説の「字形の違いがわずかであると認めるものの例」の表にも、「筆法の簡化による違い」として「壮壮」の2字が例として挙げられており、「同値」扱いの方針であったことは確実である。

4.2 「日生」典拠の旧字体

「壯」と「壯」が別区点に符号化されたのは、「日生」を典拠とするためと考えられる。前述のように、「日生」のみ典拠の新旧分離の旧字体は、9字（奥覺卷寢壯莊裝轉覽）、「日生」と「国土」に共通の新旧分離の旧字体は「殼」の1字であった。ただし、このデータは「対応分析結果」に基づくものである。そこで、「情報」の原典で確認すると、「覺」「轉」「覽」は独立した項目として立てられているので、「対応分析結果」の転記ミスである。この3字は、「情報」「日生」に共通する漢字の例に追加すべきである。

以上から、「情報」を典拠とするのではなく、「日生」を典拠とする新旧分離の旧字体は、「奥寢壯莊裝」の5字である。「国土」にもある「殼」もこれに準じてよい。

次に、この6字と現行包摂規準との関係を見ることにしよう。X 0208:1997では185の包摂規準が立てられ、該当例と適用除外例が示されている。「奥」は、包摂規準連番135（奥奥）であり、適用除外に記載がないが、これに該当しよう。「卷」は、連番14及び67（巻巻）で、適用除外に記載がある。「殼」は、連番134（穀穀）の類例であり、適用除外に該当する例である。

問題になるのは、「寢」「壯」「莊」「裝」で、これは連番162の「状状」包摂に関係する。X0208では一般にしょうへん「冂」は新旧を区別するように見える。は83JIS字体変更。

獎	將	蔣	醬	狀	寢	壯	莊	裝	x	x	x	x	x	x	x	x	x
獎	獎	將		x	寢	壯	莊	裝	奘	妝	寐	寤	漿	冂	牀	牆	鏘

「獎」は、「情報」「日生」共通の例で、部分字体の相違が2箇所もあり、しょうへん「冂」を分離するのが原則の証とはしにくい。次に、「獎」はそもそも「情報」のみの例で、その「犬」部所屬、「日下部表」¹⁷に見え、「新字源」では「獎」の古字。部分字体の相違が3箇所あり、しょうへん「冂」を分離するのが原則の例にはならない。同様に、「將」と「將」は、部分字体の相違が2箇所であり、しょうへん「冂」分離の例としにくい。「寢」と「寢」は、ヨ部分が包摂規準連番54（ヨの真ん中の横線が右に突き抜けるかどうか）にも関連するから、これもしょうへん「冂」分離の例としにくい。最後に「蔣」と「醬」は、いうまでもなく83JISで変更の例である。したがって、しょうへん「冂」の新旧分離の確実な例は、「日生」だけを典拠とする「壯」、「莊」、「裝」の3字となる。

これらを包摂規準適用除外とすべきかどうかは、大きな問題となるので、とりあえず保留するとしても、「情報」の凡例、78JIS解説に記載があることから、それにきわめて類似する例であることは容認されるであろう。

この他、「顔」「飲」の旧字体である「顔」「飲」に、別の区点位置を与えている。これは本来字形の違いが僅かとして同一の符号位置を与えるべき例であるが、見落としたものである。その見落としは、「顔」「飲」が「日生」に出現し、採録の対象となったことがそもそもの原因である。この2字は「常用漢字表」で特に括弧付きで旧字体が示されない例である。

4.3 新旧包摂の理由

旧字体が最も多く見える「情報」（6086字）は、1933（昭和8）年の漢字表である「日下部表」（6478字）を土台とする。たとえば「逸」「謁」「縁」「横」等は、旧字体だけで出現する。6000字規模で実際に使われたことが確実な漢字表は戦後の資料に存在しない。新旧字体の小異を無視する方針で臨まなければ6000字規模の文字集合を決定することが困難であった。

¹⁷「情報」が主に依拠した漢字表である。日下部重太郎「現代日本の実用漢字と別体漢字との調査及び「常用漢字」の価値の研究」（『現代国語思潮続編』中文館書店、1933年）による。

4.4 新旧包摂の例外

「情報」で「新旧包摂字」扱いであっても、他の漢字表（実際には「日生」）に出現すれば別の区点位置が与えられたか、与えることが検討されたのが78JISであった。

4.5 「日生」の問題点

以上のように「日生」は、JIS漢字の重要な所拠漢字表であり、特に旧字体の採否に関して重みを持つ漢字表であった。しかし、その信頼度に関しては少々問題がある。

第一に「日生」の漢字表は人名を網羅的に収集していない。X 0208の範囲で、「日生」と『JIS漢字字典』にまとめられた人名用例¹⁸を照合してみると、両者に共通するのが2803字、「日生」のみが118字、『JIS漢字字典』のみが2348字である。「日生」以外にも人名に使われた字が相当にあったと推測できる¹⁹。

また、情報処理学会の漢字表にある「籩（ながたに）」が「日生」に見えない。「対応分析結果」は「籩」とあり不鮮明でJISに不採録となったのであろう。

第二に、「日生」の漢字表は人名以外に使用された字を含むことが考えられる。「日生」のみは「亂一傷偽價兩門口剩劑勺口嘆器囁困囚女媒一尿屈ㄥ廢廢ㄥ弱ㄥ恚患惱悵惡情惱描搜搬擦擬敗斷村様夕殘爰毆殺没滯溜瀆濕灣災燥爆爭片版犯獵疑疲痘痛痢癖ㄥ盜睡禍窃菌縱績罰罰肺胼腦膚臟艷菌蕪蠶衰裝禪𠄎譚譜賠躑躅逃遲醕釀錘陝陷險顔飢飲駟騷騷驗鬥默蒺齒齡龠」の諸字である。部首字や非佳字もあり人名用例以外も含んでいたことが推測できる。

5 おわりに

コンピュータの飛躍的な性能の向上を考えれば、数万字をコード化するのは何の困難もないという意見もある。確かにプリンタの性能は向上しているから、プリントアウトされた字形について、その僅かな違いを識別することは容易だろう。しかし、ディスプレイの解像度は、字形の僅かな違いの識別を可能にするほど性能が向上しているといえるのであろうか。仮に数万字をコード化してもそれを識別するだけのコンピュータのディスプレイがなければ使いものにならないのではないかと疑問が消えない。

むろん、現行JIS漢字にも問題は多い。その一端は上述した通りである。しかしJIS漢字20年における四次に及ぶ改正とメーカー実装字体のコレを無視することはできない。現行JISコードによる龐大な情報の蓄積があるからである。それを捨てて新たな文字コードにより情報を一から蓄積するというなら話は簡単である。ただ、それは20年近くの期間を要し、JIS漢字によって作り上げてきた「文化」を否定することにつながる。それを自覚的に実行する覚悟があるかどうかである。

また、表外字（常用漢字以外の字体）について、字体の標準を示すという方針を打ち出すことは、現行JIS漢字の立場としてはできない。しかるべき機関が漢字字体の標準を決定するというのが望ましいが、それには相応の手続きと国民的合意が必要となるであろう。

現代においてワードプロセッサで旧字体を使うことは、単に康熙字典体による表現ということではすまなくなってしまう。人名用例に支えられてJIS漢字に採録された旧字体を使うという意味が必然的に加わってくるのである。

¹⁸主にNTT電話帳の人名データによる。

¹⁹ちなみに、地名では、「国土」と『JIS漢字字典』の地名用例に共通するのが2615字、「国土」のみが560字、地名用例のみ378字、「国土」と地名用例ともになしが2802字である。